

## 漢語サ変動詞の自他に関する一考察

庵 功雄

### 要旨

中国人学習者に対する日本語教育は重要なテーマであり、基礎的研究を積み重ねていく必要がある。こうした目的の一環として、本稿ではサ変動詞の自他を対象にアンケート調査を行った。その結果、自動詞、他動詞において含意スケールが観察された。また、受身形の習得率はよかったが、使役形はほとんど習得されていなかった。特に、「他動詞に相当する使役形」は全く習得されていなかった。そして、「VN する (VN : 動名詞)」が非対格自動詞の場合の「VN される」は誤用になるが、その場合、対応する「VN する」が習得されないという影響を与えていることがわかった。

キーワード：サ変動詞、動名詞、中国人学習者、自他、ボイス

### 0 はじめに

中国語母語話者は日本語学習者の過半を占めており、中国語母語話者に対する日本語教育<sup>1</sup>の研究は重要であると考えられる (cf. 張麟声 (2007)) が、まだ基礎的研究が欠けているのが現状である。

中国語にも日本語にも漢語があるため、中国語母語話者は日本語習得において有利な点がある。しかし、一方で漢語の知識が負の転移として働いて誤用を引き起こす場合もある。

本稿では日中同字同義の二字漢語動名詞<sup>2</sup>を対象に動詞の自他の判定に関するアンケートを母語話者と学習者 (初級、中級、上級、超級) に対して行い、形態的に指標を持たないサ変動詞における自他がどのように習得されているのかについて考えてみたい。

### 1 問題のありか

中国語を母語とする日本語学習者 (以下、中国人学習者) の作文に次のような誤用が見られることがある。

<sup>1</sup> 言語習得理論において中間言語理論が伸張するのにもなって、(言語教育において) 対照研究を軽視する傾向が強まったが、最近では、それは行きすぎであり、対照研究に基づいた言語転移の問題を考慮に入れるべきであるという説が有力になってきている (cf. 張麟声 (2007)、井上 (2005))。なお、言語転移については奥野 (2005) も参照されたい。

<sup>2</sup> 動名詞 (verbal noun, VN) とは「する」を付けてサ変動詞にできる語のことである (cf. 小林 (2004))。

- (a) 一つは、農村の人口の老化についての問題である。若者はほとんど大都市へ行って求職をするのである。\*農村の発展が停滞される。 (一橋作文コーパス<sup>3</sup>)
- (b)\* 統計という言葉は、国の状態の意味であり、十七世紀に、ドイツで出現された。  
(同上)
- (c) 第二は、[たばこの] 税率が高くなると、政府の歳入も高くなる。この部分の税金を肺癌の研究経費に充てて、有効な薬を開発し、医療設備を購入できる。\*国民の社会福祉は発展させる。 (同上)
- (d) 日本では道を歩きながらタバコを吸っている人をよく見当っている。\*台湾では罰金されるでしょう。 (同上)
- (e)\* 重金属や化学的に汚染させた水は、川や湖や海洋などに流れていた後、この中での生物にとって、非常に大きい危害になってきた。 (同上)

これらの誤用に対応する正用は(a)~(c)では「停滞する」「出現する」「発展する」であり、(d)では「罰金を取られる」、(e)では「汚染される」である。即ち、これらはボイスに関わる誤用である。そして、これらは動詞の自他の表し方に関する誤用であると言える。本稿では、母語話者と学習者の自他（広く、受身、使役を含めたボイス全体）の体系を考察することによって、こうした誤用がどのような形で存在しているのかを考えることにする。

## 2 調査とその概要

以上の問題意識から本稿では日本語母語話者と学習者に対してアンケートを実施した。アンケートの概要は次の通りである。

### <被調査者>

母語話者：一橋大学在学の大学生・大学院生 12 人

非母語話者：北京第二外国語大学の大学生

初級：北京第二外国語大学 2 年生 (46 人) 4、中級：同 3 年生 (36 人)

上級：同 4 年生 (44 人)

超級：同 3 年生のうち、7 年以上日本語を勉強しているもの (15 人)

<sup>3</sup> 本稿で用いたコーパスは五味編 (2007) におけるプロジェクトにおいて作成されたものである。内容は、一橋大学のプレイスメントテストにおいて「上級後」(日本語能力試験 1 級合格レベルまたはそれ以上) にプレイスされた学生のみが受講できる「文章表現Ⅲ」(以前は「文章表現Ⅱ」という授業において提出された作文をテキストファイル化したものである。なお、作文を書いたのは全て中国語母語話者の日本語学習者(中国人、台湾人)である。

<sup>4</sup> 1 年生を調査対象から外したのは、調査時点において 1 年生では受身と使役が未習であったため、ボイス全体の動的な体系がとらえられないためである。なお、受身、使役、自他をボイスという体系の中でとらえるという点については野田 (1991) を参照されたい。

< 自他動詞の選定 >

選定範囲は日本語能力試験 1 級以内の、日中同字同義の自他動詞を 126 個に絞った。そのうち、自動詞は 53 個、他動詞は 52 個、自他両用動詞は 21 個である。

動詞の自他は次の基準で選定した。

まず、分類の基準は以下の 5 冊の辞書 (『新選国語辞典第 8 版 (小学館)』『岩波国語辞典第 6 版 (岩波書店)』『三省堂国語辞典第 5 版 (三省堂)』『集英社国語辞典第 2 版 (集英社)』『角川最新国語辞典第 39 版 (角川書店)』) の自他に関する記載に従い、それぞれ過半数の記載があるものを自動詞、他動詞とし (例えば、3 冊以上が自動詞と記載していれば自動詞とし)、自動詞、他動詞がともに過半数のものを自他両用とした。なお、辞書の判定に疑いがある場合は新聞コーパス<sup>5</sup>で検証した (具体的には、当該の VN を検索し、自動詞用法、他動詞用法のいずれかに偏っていないかを確認した)。

次に、具体的な動詞選定の基準だが、これには次の点を考慮した。

サ変動詞は自他を表す形態的指標を欠いている。従って、次のように「自他同形」になる場合がある ((f)、(g)は小林 (2004) より)。

(f) 「する」という動詞が不規則に活用する。

(g) 太郎がその土地を有効に活用している。

しかし、常にそうであるわけではなく、「自動詞: する - 他動詞: させる (自動詞が原型)」となる場合もあり、「自動詞: される - 他動詞: する (他動詞が原型)」となる場合もある (後者は益岡 (1987) の言う「降格受動文」に当たる。cf. 張志剛 (2007))。また、受身、使役が習得されているか否かを調べるために、受身、使役であることが文脈上明らかな場合も入れておいた。

なお、今回の選定語の特徴は日中同字同義語であるという点にある。これは初級レベルでも語彙の意味が分からないから質問に答えられないということがないようにし、純粋に自他の問題だけに問題点を絞り込むための方略である<sup>6</sup>。

< 調査の内容 >

次のような文を載せて、それぞれの ( ) の中で「正しいと思うもの全て」に○を付けてもらった (全質問文は本稿末の「付録」を参照されたい)。全部で 127 文である。

<sup>5</sup> 「新聞コーパス」とは朝日新聞朝刊の 1 面記事 (9 か月分)、社説 (6 年分)、天声人語 (9 年分) からなるコーパスのことである。

<sup>6</sup> 補足だが、2005 年 3 月に中国四川大学の学生を対象とする予備調査を行い、その結果を生かし、自他動詞と調査文を選定した。なお、予備調査と今回の結果は同じ傾向であった。

- (1) 人間の気持ちは天候に (影響します 影響されます 影響させます)。  
 (2) 彼の証言と事故の経過は (一致しています 一致されています 一致させています)。

### 3 調査結果

ここでは調査結果を次の 5 つの場合に分けて考察する。

- 1) 自動詞の場合
- 2) 他動詞の場合
- 3) 自他両用動詞の場合
- 4) 受身形の場合
- 5) 使役形の場合

前述のように、質問文では (VN する、VN される、VN させる) (VN : 動名詞) という選択肢を設けた。以下では、その中で例えば、「VN する」が選ばれたことを「VN する」と表す。なお、回答は複数回答である。その上で、全体の 80%以上が「VN する」を選択した場合その形式は「習得されている」、それ以下である場合その形式は「習得されていない」と見なす。なお、特に区別する場合、50%以上 80%未満の場合その形式は「習得されているとは言えない」、30%未満の場合その形式は「習得されていない」と見なした。

#### 3.1 自動詞の場合

はじめに全体の習得状況を表す表を掲げる。(36 語)

(II)

初 級	中 級	上 級	超 級
①留学、賛成、旅行、欠席、出演 (、用心)			
		②徹夜、出血、投資、沈黙、従事、協力、徐行、一致、一変、安心、進化、抗議、退化、停滞、前進 (、武装)	
			③失業、発車、失望、集合、進歩、混乱
④<解答、違反、> 発展、握手、回答、悪化、分裂、反抗			

以下、この表の見方を説明する。

①の「留学」から「出演」までの 5 語は初級から超級までの全ての段階において「VN する」の回答率が 80%を超えており (かつ、その分布は母語話者とも一致していた)、初級から超級の全ての段階で習得されていた (と見なす)。ただし、「用心」は中級においては習得されていなかった。

②の「徹夜」から「前進」までの15語についても同様に見る。即ち、これらの語は中級から超級にかけて習得されていた。なお、「武装」は超級では習得されていなかった。

③の「失業」から「混乱」までの6語は上級及び超級において習得されていた。

最後に、④の「解答」から「反抗」までの8語は超級での回答率が80%を超えていた（それ以下のレベルではそうではなかった）。即ち、(①～③と同様)超級レベルで習得されていた。なお、「解答、違反」は中級でも習得されていた。

これに対して、以下の13語はどのレベルでも「VNする」が習得されていなかった。ここで、この中の一部の語については受身（「VNされる」）の存在が干渉していると見られる。(Ⅲ)を見られたい（質問文については付録を参照）<sup>7</sup>。

## (Ⅲ)

		自動詞の種類	母語話者	初級	中級	上級	超級
(115)	換気される	非能格					
(90)	降伏される	非能格		○	○	△	△
(8)	停止される	非能格?			△	○	○
(59)	同情される	非能格?					
(39)	苦勞される	非対格					
(16)	安定される	非対格		△		○	
(127)	誕生される	非対格		△			△
(31)	噴出される	非対格		△	△	△	△
(38)	感動される	非対格		△	△	△	○
(58)	困惑される	非対格		△	○	△	○
(25)	減少される	非対格	△	○	△	○	○
(33)	断水される	非対格		○	○	○	◎
(12)	開通される	非対格		○	○	◎	◎

無印：30%未満が「VNされる」を回答

△：30%以上50%未満が「VNされる」を回答

○：50%以上80%未満が「VNされる」を回答

◎：80%以上が「VNされる」を回答

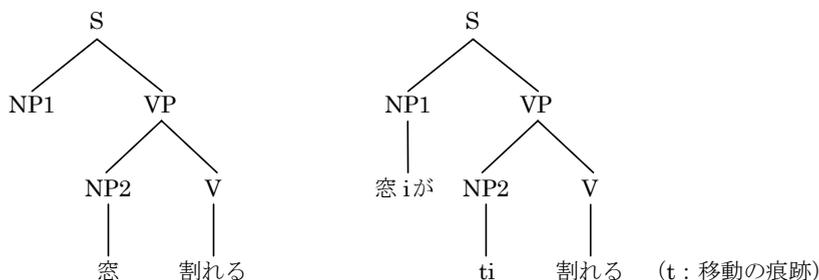
(Ⅲ)を見ると、「安定」以下の8語（及び、「降伏、停止」）では基本的に「VNされる」がある程度選択されている（中には「断水」や「開通」のように（誤用である受身が）「習得」されているものさえある）。ここで、本稿の定義では80%未満の回答は未習得なので、

(Ⅲ)で何らかの記号がついている場合には対応する「VNする」は習得されていないということになる。これが上述の「受身が干渉している」ということの意味である。

<sup>7</sup> 非能格自動詞と非対格自動詞については後述する。非能格自動詞と非対格自動詞の区別は基本的に意図性の有無（「～(し)よう」「～しろ」が取れるか否か）を基準にして行った（cf. 影山（1996:35））。

さて、この「受身」であるが、これにはもう一つ特徴がある。即ち、(Ⅲ) に挙がっている「VN される」に対応する「VN する」の多くは非対格自動詞であると見なされる。非対格自動詞とは (GB 理論の枠組みで述べると) S-構造 (表層構造) の主語が D-構造 (深層構造) において動詞の目的語であるものである。図示すると (Ⅳ) a のようになる。この D-構造がそのまま表層化すると主語のない文ができてしまうので、表層では目的語が主語の位置に移動して (Ⅳ) b のようになる。

(Ⅳ) a. 非対格自動詞 (D-構造) → b. (S-構造)



非対格自動詞については影山 (1996) などを参照されたいが、自動詞を、D-構造において主語を持つ「非能格自動詞」とそれを持たない「非対格自動詞」に分けるという発想 (これを「非対格性の仮説」と言う) は三上 (1953) の、能動詞 (非能格自動詞に相当) と所動詞 (非対格自動詞に相当) の区別に相当するものであると言える。三上 (1953) は受身になるか否かで動詞を能動詞 (受身になる) と所動詞 (受身にならない) に分け、さらに、能動詞をまともな受身 (直接受身に相当) になるか否かで他動詞 (まともな受身になる) と自動詞 (まともな受身にならない) → はた迷惑の受身 = 間接受身に相当 = にしかならない) に分類している。

影山 (1996 : 31) は三上が挙げた (間接) 受身の可否を非対格性の現れの一例として挙げている ((h)、(i) は影山 (1996) より)。

(h)\* 突然、大地震に起こられて、動転した。

(i)\* 成績に落ちられて、退学した。

以上の指摘が正しいとすれば、漢語サ変動詞においても非対格自動詞の受身は非文になるはずである。そして、実際、(Ⅲ) の各例において母語話者は「VN される」を選択していない。一方、上述のように、学習者は非対格自動詞の受身をかなり高い割合で選択している<sup>8</sup>。以上のことから、非対格自動詞は受身にならないという文法事実は (今回の被験者

<sup>8</sup> 今回のアンケートは複数回答を可とするものであるが、実際にはほとんど複数回答はなかった。「VN する」と「VN される」を両方選択したということは基本的になかったのである。

には) あまり習得されておらず、そのことが干渉して、「VN する」が非対格自動詞になる場合の「VN する」は相対的に習得率が劣ることになったと考えられる。

### 3.2 他動詞の場合

他動詞の場合もまず全体の習得状況を表す表を掲げる (全 30 語)。

(V)

初 級	中 級	上 級	超 級
①経営、浪費、発掘、分類、計算、理解、楽観、栽培、決断、討論			
②引用、支持、指揮、集中、期待、反省、決心、発音、養成			
		③<警戒、>検査、審議、運搬、混乱	
		④返済、購入、依頼、操作、公募、弁護	

表の見方は自動詞の場合と同様である。即ち、次のように言える。

①の「経営」から「討論」までの 10 語は初級から習得されていた。

②の「引用」から「養成」までの 9 語は中級から習得されていた (初級では習得されていなかった)。

③の「警戒」から「混乱」までの 5 語は上級から習得されていた。なお、「警戒」は (中級では習得されていなかったものの) 初級では習得されていた。

④の「返済」から「弁護」までの 6 語は超級レベルで初めて習得されていた。

一方、次の 3 語はどのレベルでも習得されていなかった。

(VI) 推理、支給、証明

全体を通じて、他動詞の場合は自動詞の場合のような阻害要因を見出し得なかった。

### 3.3 自他両用動詞の場合

自他両用動詞とは、動名詞が「自動詞」にも「他動詞」にも偏らない場合である (cf. 影山 (1996)、小林 (2004))。

以下の 4 語が中級から習得されていた。

(VII) 移動(9)、解散、終了、営業

(ただし、「終了、営業」は超級レベルでは習得されていなかった)

また、「増大」は超級レベルで習得されていた。

### 3.4 受身形の場合

今回の調査文の中で、母語話者が 80%以上「VN される」を選択したのは次の 19 文である。

#### <自動詞>

- (1) 人間の気持ちは天候に(影響します 影響されます 影響させます)。
- (105) その国では煙草は(課税しません 課税されません 課税させません)。

#### <他動詞>

- (6) 大雨で試合が(中止しました 中止されました 中止させました)。
- (24) 500 年前の壁画が(公開しました 公開されました 公開させました)。
- (37) 事故のため、高速道路は(閉鎖しました 閉鎖されました 閉鎖させました)。
- (46) 彼はみんなから(信頼しています 信頼されています 信頼させています)。
- (48) キリスト教は世界中で(信仰しています 信仰されています 信仰させています)。
- (52) この教室の使用は 1 年生向けの授業に(限定しています 限定されています 限定させています)。
- (64) 新しい技術が(発明しました 発明されました 発明させました)。
- (66) 試験で難問が(出題した 出題された 出題させた)。
- (69) 官庁の汚職の証拠が(公表しました 公表されました 公表させました)。
- (74) 事故の処理が完成したことが(通知しました 通知されました 通知させました)。
- (91) 新しい同僚の自宅に(招待しました 招待されました 招待させました)。
- (99) A 市では爆竹を鳴らすことは(禁止しています 禁止されています 禁止させています)。
- (101) 彼は汚職の容疑で(逮捕しました 逮捕されました 逮捕させました)。
- (102) 彼女は A 国の大使に(任命しました 任命されました 任命させました)。
- (109) 戦後、日本は連合軍に(占領しました 占領されました 占領させました)。
- (117) 新しい通信会社が(設立しました 設立されました 設立させました)。

#### <自他両用動詞>

- (21) 東西ドイツは 1990 年に(統一しました 統一されました 統一させました)。

それぞれについての学習者の習得状況を以下に記す。

まず、自動詞だが、初級レベルで「影響」が、超級レベルで「課税」が習得されていた。他動詞についてはまず表を掲げる。(全 13 語)

(VIII)

初 級	中 級	上 級	超 級
①閉鎖、逮捕、発明、占領			
		②限定、禁止、信頼、信仰、公表（、設立）	
		③招待、公開、任命	

①の「閉鎖」から「占領」までの4語は初級から習得されていた。

②の「限定」から「公表」までの6語は中級から習得されていた。ただし、「設立」は上級では習得されていなかった。

③の「招待」から「任命」までの3語は上級から習得されていた。なお、「公開、任命」は初級でも習得されていた。

これに対し、「中止、出題」は上級でのみ習得されており、「通知」はどのレベルでも習得されていなかった。

最後に、自他両用動詞の「統一」だが、これはどのレベルでも習得されていなかった。

なお、「開通、断水」においては、母語話者は「VNする」を選択しているにもかかわらず、学習者には受身として習得されている。これは「開通、断水」に対応する「VNする」が非対格自動詞であり、本来は受身にできないにもかかわらず、そのことが知識として学習者に伝わっていないためであろう（3.1参照）。

これに関して、母語話者が選択していないにもかかわらず学習者が50%以上（80%未満）「VNされる」を選択した例を全て挙げると次のようになる。

(XI)

<自動詞>

進行（初級、中級、上級、超級）、握手（初級）、感動（超級）、  
停止（上級、超級）、降伏（初級、中級）、  
困惑（中級、超級）、安定（上級）、減少（初級、上級、超級）

<他動詞>

証明（中級）

<自他両用動詞>

完成（初級、上級、超級）、解決（初級、中級、上級、超級）、  
命令（中級、上級、超級）

3.5 使役形の場合

今回の調査文の中で、母語話者が「VNさせる」を選択したのは次の8文である。

<自動詞>

(125) 彼は自分の子どもを事故で（死亡しました 死亡されました 死亡させました）。

(7) 子どもたちがこまを（回転して 回転されて 回転させて）遊んでいます。

<他動詞>

- (120) 冷蔵庫が壊れたので、電気屋に(修理しました 修理されました 修理させました)。  
(3) 彼は自社のやり方を新会社に(応用しました 応用されました 応用させました)。  
(30) 首相は構造改革を(推進しています 推進されています 推進させています)。

<自他両用動詞>

- (20) 彼の研究は物質 A と物質 B を(合成する 合成される 合成させる)ことです。  
(22) A 国は軍勢力を(増強しています 増強されています 増強させています)。  
(27) 地震で本棚が倒れないように(固定しました 固定されました 固定させました)。  
(100) 隣の部屋に本を(移動してください 移動されてください 移動させてください)。

「VN させる」には 1) 使役の場合と 2) 他動詞相当の場合があると考えられる。ここで、上記の 8 文を 1) と 2) に分類すると次のようになる。

- 1) 使役 : (120) (125)  
2) 他動詞相当 : (3) (7) (20) (22) (27) (30) (100)<sup>9</sup>

ここで、母語話者は(120) (125) (3) (7)では「VN する」を選択していないが、(20) (27) (30) (100)では「VN する」と「VN させる」の両方を選択している。

使役形が選択された場合全体を通じて、学習者が (80%以上) 習得していた場合はなかった。これは受身形の場合とは対照的である。習得レベルを 50%以上に下げると、「修理」(120)が中級以降で選択されていた。これに対し、同じ使役でも「死亡」(125)では「VN させる」は全く選択されていない。これは(125)が「責任の使役」であり、学習項目ではないためであろう。

上述のように、(30) (100) (20) (27)では母語話者は「VN する」と「VN させる」の両方を選択している<sup>10</sup>が、学習者は「VN する」しか選択していない。これはこうした他動詞相当の用法が明示的に教えられていないことに由来するものと思われる<sup>11</sup>。

<sup>9</sup> (7)のような「VN する」が非対格自動詞の場合の「VN させる」は他動詞相当になる (cf. 張志剛 (2007) )。

<sup>10</sup> これらは自他両用なので、他動詞解釈の場合は「VN する」が、自動詞解釈の場合は(他動詞にするために)「VN させる」が選択されているものとも考えられる。一方、(3) (30)では「VN する」が他動詞であるにもかかわらず「VN させる」も選択されている。これは定延 (2000) の言う「使役過剰」の例になる。

<sup>11</sup> こうした説明に対して、3.1 で扱ったような現象も明示的知識 (explicit knowledge) の提示の不足に由来するのではないかという指摘を受けた (張麟声氏 (p.c.))。確かに、その可能性もあるし、その方が実態に近い可能性もあるが、本稿ではフォローアップインタビューを行っていないので、この点について断定的なことを述べることができない。今後の課題としたい。

#### 4 まとめ

本稿ではアンケート調査に基づいて漢語動名詞の自他がどのように習得されているかを考えた。母語話者が一貫して「VNする」を使っている場合でも、学習者は必ずしも「VNする」を使用していなかった。学習者が機械的に「VNする」を回答していれば「習得」したことになるわけだが、実際の分布はそのようになっていない。

さらに、学習者のレベルを考慮に入れると、(II)(V)のような含意スケール(implicational scale. cf. Richards et al. (1985))が観察された。このスケールの意味するところは今後の研究課題だが、中国人学習者の中に「習得しやすい語」のイメージがあるのかもしれない。

一方、受身形がよく習得されているのに対し、使役の習得率は低い。特に、「他動詞に相当する使役形」は全く習得されていない。また、「VNされる」のうち「VNする」が非対格自動詞である場合は誤用となるが、こうした環境では「VNする」の習得が阻害されることも明らかになった。

今後の課題としては、使役の習得過程、「他動詞相当の「VNさせる」」に関する調査と、「VNする」が非対格自動詞になる場合の「VNされる」の許容度に関する調査が挙げられる。今後、張志剛(2007)などを参考に調査文を作成したい。また、(II)(VI)に見られる含意スケールについても語彙を増やして考えていきたい<sup>12</sup>。

#### 引用文献

- 井上優(2005)「学習者の母語を考慮した日本語教育文法」野田尚史編『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版
- 奥野由紀子(2005)『第二言語習得過程における言語転移の研究』風間書房
- 影山太郎(1996)『動詞意味論』くろしお出版
- 小林英樹(2004)『現代日本語の漢語動名詞の研究』ひつじ書房
- 五味政信編(2007)『中国語母語話者に対する社会科学系専門日本語教育のための教材開発』2003年度～2006年度基盤研究(C)研究成果報告書(課題番号15520328)
- 定延利之(2000)『認知言語論』大修館書店
- 張志剛(2007)「日本語漢語動詞の自他の使用傾向」『一橋日本語教育研究報告』1 一橋大学
- 張麟声(2007)『中国語話者のための日本語教育研究入門』大阪公立大学共同出版会
- 野田尚史(1991)「文法的なヴォイスと語彙的なヴォイスの関係」仁田義雄編『日本語のヴォイスと他動性』くろしお出版
- 益岡隆志(1987)『命題の文法』くろしお出版

<sup>12</sup> 本稿と同じデータを用いて独自の分析を行っているものに劉(2008)がある。その記述には教えられる点が多いが、分析の観点が異なっているため、本稿にその指摘内容を組み入れることは十分にできなかった。今後の課題としたい。

三上章 (1953) 『現代語法序説』(くろしお出版から再版 (1972))

劉時珍 (2008) 「漢語自他動詞の使用規則を探る I - 現状把握編」 m.s.

Richards, J., Platt, J. & Weber, H. (1985) *Longman dictionary of applied linguistics*.  
Longman

### 謝辞

本稿をなすに当たって劉時珍氏 (一橋大学博士課程大学院生。中国語母語話者) の全面的な協力を得た。記して心から感謝申し上げます。また、調査に協力いただいた全ての方々、ならびに北京第二外国語大学での調査を実施して下さった同大学の楊玲先生、楊先生をご紹介くださった北京日本学研究中心の曹大峰氏に心から感謝いたします。

(いおり いさお 留学生センター准教授)



- (25) この機械の導入によって、仕事の量が(減少しました 減少されました 減少させました)。
- (26) 政府は政策を(転換しました 転換されました 転換させました)。
- (27) 地震で本棚が倒れないように(固定しました 固定されました 固定させました)。
- (28) 彼女はしっかりと(握手しました 握手されました 握手させました)。
- (29) 電車は時間通りに(発車しました 発車されました 発車させました)。
- (30) 首相は構造改革を(推進しています 推進されています 推進させています)。
- (31) その問題が明らかになったあと、いろいろな不満が(噴出しました 噴出されました 噴出させました)。
- (32) この分野は急速に(発展しました 発展されました 発展させました)。
- (33) 昼休みに(断水しました 断水されました 断水させました)。
- (34) パソコンの売り上げが(停滞しています 停滞されています 停滞させています)。
- (35) 自民党は政策をめぐって、(分裂しました 分裂されました 分裂させました)。
- (36) このままだと環境は一層(悪化します 悪化されます 悪化させます)。
- (37) 事故のため、高速道路は(閉鎖しました 閉鎖されました 閉鎖させました)。
- (38) 彼女の踊りを見て、強く(感動しました 感動されました 感動させました)。
- (39) 彼の周りの人は(苦労しました 苦労されました 苦労させました)。
- (40) 首相の発言に(失望しました 失望されました 失望させました)。
- (41) 人間は猿から(進化しました 進化されました 進化させました)。
- (42) 彼女と結婚することを(決心しました 決心されました 決心させました)。
- (43) 彼のおかげで問題は簡単に(解決しました 解決されました 解決させました)。
- (44) 彼は大学に残るか就職するかを(決断しなければなりません 決断されなければなりません 決断させなければなりません)。
- (45) 彼女が何も言わないということは、その案に反対だということを(意味します 意味されます 意味させます)。
- (46) 彼はみんなから(信頼しています 信頼されています 信頼させています)。
- (47) 彼女が成功することを(期待しています 期待されています 期待させています)。
- (48) キリスト教は世界中で(信仰しています 信仰されています 信仰させています)。
- (49) 急に話しかけられて、(混乱しました 混乱されました 混乱させました)。
- (50) 外で歩かないと、足が(退化します 退化されます 退化させます)。
- (51) A 国は外国からの攻撃に対して(警戒しています 警戒されています 警戒させています)。
- (52) この教室の使用は 1 年生向けの授業に(限定しています 限定されています 限定させています)。
- (53) 母は毎日、その日の支出を(計算しています 計算されています 計算させています)。
- (54) 血液検査で細菌の有無を(検査しました 検査されました 検査させました)。
- (55) 警察では犯人は一人だったと(推理しています 推理されています 推理させています)。

- (56) 彼は事件のとき現場にいなかったことを（証明しました 証明されました 証明させました）。
- (57) 論文を書くときには、先行研究を正しく（引用する 引用される 引用させる）ことが必要です。
- (58) 彼の行動にみんな（困惑しました 困惑されました 困惑させました）。
- (59) みんな彼に（同情しました 同情されました 同情させました）。
- (60) 登山するときにはいつも（用心します 用心されます 用心させます）。
- (61) 私は未来の日本について（楽観しています 楽観されています 楽観させています）。
- (62) 彼は自分の行為について（反省しています 反省されています 反省させています）。
- (63) 私は彼の立場を（理解しています 理解されています 理解させています）。
- (64) 新しい技術が（発明しました 発明されました 発明させました）。
- (65) 彼は10分ですべての問題に（解答しました 解答されました 解答させました）。
- (66) 試験で難問が（出題しました 出題されました 出題させました）。
- (67) バス旅行が終わり、正門の前で、全員（解散しました 解散されました 解散させました）。
- (68) この問題は重要なので私たちが慎重に（審議する 審議される 審議させる）ことにします。
- (69) 官庁の汚職の証拠が（公表しました 公表されました 公表させました）。
- (70) 彼は急に（沈黙しました 沈黙されました 沈黙させました）。
- (71) 彼女の質問に（回答しました 回答されました 回答させました）。
- (72) 4人の経済学者が日本経済について（討論しました 討論されました 討論させました）。
- (73) 彼女は日本語を美しく（発音します 発音されます 発音させます）。
- (74) 事故の処理が完成したことが（通知しました 通知されました 通知させました）。
- (75) 難問でしたが、彼は（正解しました 正解されました 正解させました）。
- (76) 彼は被告人を（弁護しました 弁護されました 弁護させました）。
- (77) 私は彼女の意見に（賛成します 賛成されます 賛成させます）。
- (78) 彼は（失業しました 失業されました 失業させました）。
- (79) 彼女は機械関係の仕事に（従事しています 従事されています 従事させています）。
- (80) この建物は今月中に（完成する 完成される 完成させる）予定です。
- (81) 彼女は海外の大学に（留学しました 留学されました 留学させました）。
- (82) 火災が起こって非常口から（避難しました 避難されました 避難させました）。
- (83) 久しぶりに（徹夜しました 徹夜されました 徹夜させました）。
- (84) 犯人は拳銃で（武装していました 武装されていました 武装させていました）。
- (85) 私たちは彼らの調査に（協力しました 協力されました 協力させました）。
- (86) 私たちはよく2人で（旅行しました 旅行されました 旅行させました）。
- (87) 彼女は親に（反抗して 反抗されて 反抗させて）家出しました。
- (88) 参加予定者のうち、35人が（欠席しました 欠席されました 欠席させました）。

- (89) 審判の判定に対し、選手が(抗議しました 抗議されました 抗議させました)。
- (90) A 国は B 国に(降伏しました 降伏されました 降伏させました)。
- (91) 新しい同僚の自宅に(招待しました 招待されました 招待させました)。
- (92) 電気屋に扇風機の修理を(依頼しました 依頼されました 依頼させました)。
- (93) 彼女は自民党を(支持しています 支持されています 支持させています)。
- (94) 彼女は規則に(違反しました 違反されました 違反させました)。
- (95) 彼は楽団を(指揮しています 指揮されています 指揮させています)。
- (96) 彼は会社を(経営しています 経営されています 経営させています)。
- (97) ここにある 100 枚のカードを 5 分以内に(分類してください 分類されてください 分類させてください)。
- (98) A 市では新しい公園の設計を(公募しています 公募されています 公募させています)。
- (99) A 市では爆竹を鳴らすことは(禁止しています 禁止されています 禁止させています)。
- (100) 隣の部屋に本を(移動してください 移動されてください 移動させてください)。
- (101) 彼は汚職の容疑で(逮捕しました 逮捕されました 逮捕させました)。
- (102) 彼女は A 国の大使に(任命しました 任命されました 任命させました)。
- (103) 彼は多くの日本語教師を(養成しました 養成されました 養成させました)。
- (104) この時間だとデパートは(営業していません 営業されていません 営業させていません)。
- (105) その国では煙草は(課税しません 課税されません 課税させません)。
- (106) この本は苦労して(購入しました 購入されました 購入させました)。
- (107) この短期アルバイトをした人には 1 日 5 千円を(支給します 支給されます 支給させます)。
- (108) 彼はその会社に(投資しています 投資されています 投資させています)。
- (109) 戦後、日本は連合軍に(占領しました 占領されました 占領させました)。
- (110) 彼はお金を(浪費します 浪費されます 浪費させます)。
- (111) 日本は中東の産油国から石油を(輸入しています 輸入されています 輸入させています)。
- (112) 戦争の危機が(増大しました 増大されました 増大させました)。
- (113) 銀行から借り入れたお金は(返済しなければなりません 返済されなければなりません 返済させなければなりません)。
- (114) テレビを見ていたら、洋子が(出演していました 出演されていましたが 出演させていました)。
- (115) ガスを使う時は適当な時間に窓を開けて(換気する 換気される 換気させる)ことが大事です。
- (116) 彼女は富士りんごを(栽培しています 栽培されています 栽培させています)。
- (117) 新しい通信会社が(設立しました 設立されました 設立させました)。
- (118) 車が引っ越しの荷物を(運搬しています 運搬されています 運搬させています)。

- (119) 彼女は新しい本を（出版しました 出版されました 出版させました）。
- (120) 冷蔵庫が壊れたので、電気屋に（修理しました 修理されました 修理させました）。
- (121) 旅行に出かける前に、車を（整備しました 整備されました 整備させました）。
- (122) 彼の専門は考古学で、真夏でも真っ黒になって（発掘しています 発掘されています 発掘させています）。
- (123) あの赤い高級車は彼が（操作しています 操作されています 操作させています）。
- (124) 薬は水で飲むのがいいのですが、水がなかったのでお茶で（代替しました 代替されました 代替させました）。
- (125) 彼は自分の子どもを事故で（死亡しました 死亡されました 死亡させました）。
- (126) 犯人はけがをして、（出血しながら 出血されながら 出血させながら）逃げました。
- (127) 牛が（誕生する 誕生される 誕生させる）ところを見て感動しました。

質問：あなたは、日本語を使うとき、どういう基準で漢語の自動詞と他動詞を使い分けていますか。

答え：